

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	山口県	市町村名	萩市	大学名	
派遣日	令和2年1月13日(水曜日) 13:30~15:30				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所					
アドバイザー氏名	福岡市立松島小学校 校長 西村 綾子				
相談者	山口県萩市教育委員会 指導主事 田中 由起枝				
相談内容	<p>本市では、日本語指導が必要な幼児、児童に対して、「幼児通級指導」という形で対応している。しかしながら、週一回の短時間の指導であること、指導者が日本語指導の専門性を有してはいないこと等課題が山積している。また、市内在住の外国籍の方々の支援するための「外国人対応窓口」のような部署もない。このような状況において、令和4年度より市内の公立小学校に入学予定のベトナム籍の幼児がいる。母親が日本語を全く理解できないため、受け入れ側の小学校が大変な危機感を抱いている。保育園では翻訳機を用いて本人や保護者とコミュニケーションをとっている。本人は簡単な日常会話はできるが、学習で用いる日本語の理解となると非常に難しいだろうと小学校では捉えている。</p> <p>前述の児童を支援するにあたって、教育委員会として、具体的にどのような手立てを講じるべきなのか、ということを中心にお話を伺った。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>「外国人児童生徒等教育の充実を目指して」</p> <p>講師とのQ&Aのやり取りを通して現状をとらえ、すべきことを確認していった。</p> <p>○外国人児童生徒等教育 日本語指導・・・何から始めたらいいのか？</p> <p>○実態把握</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語指導が必要な子供の数・・・公立学校における日本語指導が必要な外国籍児童生徒数は10年間で約1.4倍、日本国籍の児童生徒数は約2倍に増加している。・日本語指導担当教員の配置はあるか・日本語指導の実際は？ <p>○市教委としてしなければならないこと</p> <p>①体制の整備</p> <p>【ハード面】</p> <ul style="list-style-type: none">・どの体制が一番可能で、効率的か・どの体制を目指したいか <p>「各地域の実情に応じた受け入れ体制づくりを」</p> <p>A: 拠点校を設置する B: 日本語指導担当教師による巡回指導を行う</p> <p>C: 各学校で取り組む</p>				

	<p>【人的体制】</p> <ul style="list-style-type: none">・人の配置・指導者は、専門の教員は？ 支援団体は？ サポーターは？ <p>※ 日本語サポートセンター、コーディネーター、拠点校指導員、日本語指導担当教員等</p> <p>【受け入れ体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語指導が必要な児童生徒が急に転入してきたら・・・・転入の把握はだれか？・受け入れの手順は？・学校は何をよりどころに、どのように受け入れをしていくのか？ → そのために、あったら助かるものは何か？ 「よりどころ」・・・文部科学省総合教育政策局の「外国人児童生徒受け入れの手引き」 基盤とする考え方の提示 ・何をすべきなのか？<ul style="list-style-type: none">・準備するものは？・日本語指導って？ <p>※「学習の型をパターン化する」「指示言葉をシンプルにする」</p> <p>※子どもがつまづく5つの要因</p> <ol style="list-style-type: none">1) 学習内容そのものが未習得、未経験2) 母国との学習形態や指導方法の相違3) 日本の文化背景や生活習慣に関する知識不足4) 発話を聞き取る力の不足5) 理解できた内容を表現する力の不足 <p>直接支援・・・理解支援（言い換える・視覚化する・例示する・比喩を利用する・対比させる・既有知識の活性化をする）、表現支援（選択肢を示す・表現方法を示す・モデルを示す）、記憶支援（視覚化する・音声化する・反復する・連想させる）</p> <p>間接支援・・・自律支援（自分で学習する力を高める支援）、情意支援（学習への動機づけなど情意面での支援）</p> <p>※受け入れから指導・評価までの流れ</p> <ol style="list-style-type: none">1) 面談・測定・・・既習経験、生活背景、来日の目的等、日本語能力の測定、今後の日本語指導について指導・助言2) 判断・・・「日本語指導プログラム」の活用3) 指導計画作成・・・子どもの実態から、目標、プログラム、指導内容、時間数等を決めていく。4) 指導評価・・・子ども自身の学びの姿を可視化し、学びの連続化を図るために、個人カルテを活用し、日々の記録を大切にすること。さらに、それを全教職員及び関係者で共有すること。記録の際は、だれが、何のために、どうやって行ったのかを一覧表にして明示する。5) 日本語指導終了
--	---

	<p>② 指導の充実に向けて</p> <ul style="list-style-type: none">・そもそも・・・日本語指導とは何か、どのような子どもに、どのように指導するのか、枠組みを提示する必要がある・だれが、どのように指導するのか<ul style="list-style-type: none">→ 指導者の育成・・・研修の充実 <p>※ 日本語指導が必要な児童生徒とは？→ 日本語で日常会話が十分にできない、日常会話ができても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障がある児童生徒のことである。</p> <p>→日本語を使って学校生活を営むことができるようにすること。学年相当の学習言語を使って、日本語で学習へ参加できるようにすること。</p> <p>※必読書 「外国人児童生徒受入れの手引き（改訂版）」 「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント」DLA</p> <p>③ そのために</p> <ul style="list-style-type: none">・市教委としてすること <p>※「教育方針」等への外国人児童生徒等教育の明確な位置づけ、研究推進校（地域）の指定、小学校新入学相当年齢の外国人の子供への対応、外国人の子供が編入する場合の対応、市町村として受け入れ体制づくり、学校における受け入れ体制の整備にかかわる支援（＝市町村としての受け入れ体制の整備）、進路説明会の開催、学校における多文化共生社会の実現を目指す取組の推進 等</p>
<p>相談後の方針の変化、今後の取組方針等</p>	<p>はじめに、萩市の実態について西村アドバイザーにお伝えし、講話の中で、萩市教育委員会として、着手すべきことを探っていった。その中で、今後の支援体制づくりとしては、地域や学校の実態から、巡回型が適切であろうと判断した。</p> <p>次に、令和4年度よりベトナム籍の児童が入学予定の公立小学校への支援のあり方について具体的な取組について提案していただいた。まず、入学前に保護者と管理職、市教委の担当が同席の元、子どもと保護者への面談を行い、対話をしながら、実態把握する必要がある。幼児であるため、絵カードも活用しながら、日本語能力を測定する。同時に、既習経験や生活背景についても確認する。面談内容を元に、当該児童に必要な支援について、学校がすべきこと、市教委がすべきことを共に考えていきたいと考えている。</p> <p>西村アドバイザーから、学校と市教委の外国人児童生徒教育を支える体制づくりを、今後、市内の小・中学校で参考となるようにシステム化することを提案された。その第一歩として、前述の小学校の仮入学のために作成したベトナム語の「1日入学のしおり」をより汎用性のあるものに作成しなおし、萩市内の小・中学校で共通に使えるものにしていく。手始めに、日本語版、英語版、ベトナム語版を作成する予定である。</p> <p>本研修を受け、当該小学校の管理職と今後のサポート体制づくりについて話し合った。西村アドバイザーからもご指摘があったのだが、子どもが小学校への新入学生であることを踏まえると、入学後に特に在籍学級担任が留意すべきことを踏まえながら、通常の小学1年生に行うていねいな指導を心がけることで、子どもに対しての支援は</p>

(様式3)

	<p>ある程度十分であり、今まさに必要なのは、全く日本語を理解できない母親への支援であるという結果になった。そのため、山口県国際交流協会から必要に応じて、学校に通訳を派遣すること、また母親と子どもの日本語能力を向上させるために、日本語クラブ萩につなぎ、週1回、特別に日本語を学ぶ機会を得ることにつながった。</p> <p>本市における外国人児童生徒等への教育はまだ始まったばかりであり、課題も山積しているが、今回の研修をきっかけとして、実を伴って第一歩を踏み出すことができ、このような機会をいただけたことに大変感謝している。今後、計画的に外国人児童生徒等の教育を支える仕組みづくりをしていきたい。</p>
--	--

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、[文部科学省ホームページ](#)で公開いたします。